

豊友会だより第十一回俳壇へのご応募ありがとうございました。投句いただいた全作品を掲載します。
次回、第十二回俳壇へのご応募をお待ちしております。 豊友会だより編集係

第十一回豊友会俳壇(豊友会だより第70号)

兼題－1:金魚

| 投稿者 | 作 品 |
|--------|-----------------------------------|
| 赤塚 慎一郎 | 金魚藻の鏡に揺れし美容室 |
| 浅見 茂 | 用水路金魚みつけた飛騨の街 |
| 阿部 皓一 | 二の丸の金魚尻振りおおらかに |
| 井池 輝繁 | 鉢照りて満ちたりてみる金魚かな |
| 上田 正隆 | 金魚立ち急ぎ水替え泳ぎだし |
| 海外 涼 | 金魚鉢大きく見えし人の顔 |
| 川上 千里 | 買われたる金魚の一生鉢 <small>ヒトコ</small> の中 |
| 川端 一博 | 出目金を追いかけてタモはまた破れ |
| 川畑 耕祐 | 金魚売集まり困む子に優し |
| 黒山 茂英 | 屑金魚目玉ぎよろぎよろ永らへて |
| 小泉 隆広 | 金魚玉大和から来る難波路へ |
| 斎藤 光 | 空耳か「金魚へ金魚」路地裏に |
| 武川 順子 | 棚の奥幼き頃の金魚鉢 |
| 土田 悦男 | 夕凧の金魚すくいや孫と夢中 |
| 内藤 俊彦 | 金魚鉢子らが水換え服も換え |
| 中村 隆晴 | 縁日の金魚掬ひに燥ぐ子等 |
| 濱田 昌則 | 売り声が遠くなりけり夕涼み |
| 本藤 聡子 | 「お帰り」とガラス越しの金魚かな |
| 森 小百合 | 金魚鉢のぞきし紅い孫の笑み |
| 森 志津子 | ほてい藻根から生まれし針子たち |
| 屋代 順治郎 | 繰り返し掬ふ金魚の紙破れ |
| 矢倉 弘泰 | 水槽の奥より目玉黒出目金 |
| 矢治 宏之 | この金魚一尾群れより離れ居る |
| 山中 基資 | ショータイム金魚模様のエンゼルス |
| 吉武 繁廣 | 金魚玉じつとみつめる幼き目 |

兼題－2：新米

| 投稿者 | 作 品 |
|--------|----------------|
| 赤塚 慎一郎 | 新米の櫃滑らかに朝餉かな |
| 浅見 茂 | 老猫にできたて新米おすそわけ |
| 阿部 皓一 | ふるさとの新米の香に母の汗 |
| 井池 輝繁 | 今年米母を特養に入れてのち |
| 上田 正隆 | 新米は叔父丹精のこしひかり |
| 海外 涼 | 新米を搗きたる音や水車小屋 |
| 川上 千里 | 新米をまづ義民碑に供へたり |
| 川端 一博 | 炊きあがり香りは語る新米よ |
| 川畑 耕祐 | 故郷の母より届く今年米 |
| 黒山 茂英 | 新しき釜新米の噴きこぼれ |
| 小泉 隆広 | 新米をメールで送ると里の親 |
| 斎藤 光 | 魂の籠る新米輝きぬ |
| 武川 順子 | 炊きたての新米私の五感沸く |
| 土田 悦男 | 新米の甘い香や父母はるか |
| 内藤 俊彦 | 新米や重き稲穂に照る夕日 |
| 中村 隆晴 | 炊立ての新米先づは神仏に |
| 濱田 昌則 | 今年酒志野満盃に正座せり |
| 本藤 聡子 | 新米が茶碗に数粒残りけり |
| 森 小百合 | 新米をかみしめ昔の苦を想う |
| 森 志津子 | 新米のゆげの向こうに待つ夫 |
| 屋代 順治郎 | 粒ごとに輝く白さ今年米 |
| 矢倉 弘泰 | 最後かもと老農夫より今年米 |
| 矢治 宏之 | 新米を磨ぐ妻自信の水加減 |
| 山中 基資 | 味をますお供いらずの新米かな |
| 吉武 繁廣 | 炊きたてはまずは仏壇今年米 |

自由題:「夏」「秋」の季題より

| 投稿者 | 作 品 |
|--------|------------------|
| 赤塚 慎一郎 | コロナ禍の巣籠り久し夏に入る |
| 浅見 茂 | くるくると庭の紅葉のタネコプター |
| 阿部 皓一 | 夏浅し多摩川の堰泡立たぬ |
| 井池 輝繁 | 菖蒲湯やいそぢ昔の志 |
| 上田 正隆 | 熱帯夜明けたる庭に朝煙草 |
| 海外 涼 | カアカアと見上げる先に秋の空 |
| 川上 千里 | 遺族へは言えぬ事あり終戦日 |
| 川端 一博 | せみ時雨聴けぬ街からせみの候 |
| 川畑 耕祐 | 蝉しぐれ名残惜しんで競い合う |
| 黒山 茂英 | つま先にどんぐりまるぶ試歩の径 |
| 小泉 隆広 | 名札下げいわく因縁言ふ案山子 |
| 斎藤 光 | 蝉の声一塊となりひたと止む |
| 武川 順子 | 青梅を覗きて採るも見残しや |
| 土田 悦男 | 朝もやの緑のカーテン花二輪 |
| 内藤 俊彦 | 夏祭り家族と歩き声からし |
| 中村 隆晴 | 帆のやうに蟻が一途に蝶を曳く |
| 野下 晴夫 | 王女かとカサブランカの花踊る |
| 濱田 昌則 | 茜富士車を停めて見つめ合う |
| 本藤 聡子 | 膨らんだとうもろこしを叩く雹 |
| 森 小百合 | 待ちわびて浴衣のすそが短かけり |
| 森 志津子 | 信濃路をいろとりどりに染める秋 |
| 屋代 順治郎 | 海岸へ駆け出す笑顔夏きたる |
| 矢倉 弘泰 | ナイターの歓声ときに風にのり |
| 矢治 宏之 | 新涼やせせらぎの音透きとほる |
| 吉武 繁廣 | 鹿の子や煎餅よりも母の傍 |